

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第7部門第3区分

【発行日】平成30年5月24日(2018.5.24)

【公表番号】特表2017-520169(P2017-520169A)

【公表日】平成29年7月20日(2017.7.20)

【年通号数】公開・登録公報2017-027

【出願番号】特願2016-569696(P2016-569696)

【国際特許分類】

| | | |
|--------|-------|-----------|
| H 04 B | 1/405 | (2015.01) |
| H 04 B | 1/52 | (2015.01) |
| H 04 B | 1/54 | (2006.01) |
| H 04 B | 1/403 | (2015.01) |
| H 04 B | 1/00 | (2006.01) |

【F I】

| | | |
|--------|-------|-------|
| H 04 B | 1/405 | |
| H 04 B | 1/52 | |
| H 04 B | 1/54 | |
| H 04 B | 1/403 | |
| H 04 B | 1/00 | 2 8 2 |

【手続補正書】

【提出日】平成30年4月6日(2018.4.6)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の周波数シンセサイザと複数のキャリアアグリゲーション(CA)受信機(Rx)チェーンと複数のCA送信機(Tx)チェーンとを使用してトランシーバ設計を再構成するための方法であって、

第1の周波数シンセサイザを第1のCA Txチェーンに接続することと、

残りの複数の周波数シンセサイザの各々を前記複数のCA Rxチェーンのうちの1つに接続することと

を備え、前記残りの複数の周波数シンセサイザのうちの第2の周波数シンセサイザは、共有シンセサイザとして前記複数のCA Rxチェーンのうちの第1のCA Rxチェーンと第2のCA Txチェーンとに接続される、

方法。

【請求項2】

前記共有シンセサイザが時分割複信(TDD)チェーンを駆動すべきであるとき、前記共有シンセサイザは、前記第2のCA Txチェーンまたは前記第1のCA Rxチェーンのうちの1つのために使用されるように構成され、

前記第1の周波数シンセサイザは、周波数分割複信(FDD)モードにおいて前記第1のCA Txチェーンのために使用されるように構成され、

残りの周波数シンセサイザは、前記FDDモードにおいて残りのRxチェーンのために使用されるように構成される、

請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記トランシーバは、前記FDDモードにおける3つのCA R×チェーンと、TDDモードにおける1つのCA R×チェーンと、前記FDDモードにおける1つのCA T×チェーンと、前記TDDモードにおける1つのCA T×チェーンとを少なくとも含む、

請求項2に記載の方法。

【請求項4】

前記共有シンセサイザがTDDチェーンを駆動すべきであるとき、前記共有シンセサイザは、前記第2のCA T×チェーンまたは前記第1のCA R×チェーンのうちの1つのために使用されるように構成され、

前記第1の周波数シンセサイザは、TDDモードにおいて前記第1のCA T×チェーンのために使用されるように構成され、

残りの周波数シンセサイザは、前記TDDモードにおいて残りのR×チェーンのために使用されるように構成される、

請求項1に記載の方法。

【請求項5】

前記トランシーバは、前記TDDモードにおける4つのCA R×チェーンと、前記TDDモードにおける2つのCA T×チェーンとを少なくとも含む、

請求項4に記載の方法。

【請求項6】

前記共有シンセサイザがTDDチェーンを駆動すべきであるとき、前記共有シンセサイザは、前記第2のCA T×チェーンまたは前記第1のCA R×チェーンのうちの1つのために使用されるように構成され、

前記第1の周波数シンセサイザは、TDDモードにおいて前記第1のCA T×チェーンのために使用されるように構成され、

前記第2および第3の周波数シンセサイザは、前記TDDモードにおいて第2および第3のR×チェーンのために使用されるように構成され、

残りの周波数シンセサイザは、前記FDDモードにおいて残りのR×チェーンのために使用されるように構成される、

請求項1に記載の方法。

【請求項7】

前記トランシーバは、前記TDDモードにおける3つのCA R×チェーンと、前記FDDモードにおける1つのCA R×チェーンと、前記TDDモードにおける2つのCA T×チェーンとを少なくとも含む、

請求項6に記載の方法。

【請求項8】

前記共有シンセサイザは、FDDモードにおいて前記第1のCA R×チェーンのために使用されるように構成され、

前記第1の周波数シンセサイザは、前記FDDモードにおいて前記第1のCA T×チェーンのために使用されるように構成され、

残りの周波数シンセサイザは、前記FDDモードにおいて残りのCA R×チェーンのために使用されるように構成され、

前記第2のCA T×チェーンは、無効にされる、

請求項1に記載の方法。

【請求項9】

前記トランシーバは、前記FDDモードにおける4つのCA R×チェーンと、前記FDDモードにおける1つのCA T×チェーンとを少なくとも含む、

請求項8に記載の方法。

【請求項10】

前記共有シンセサイザは、FDDモードにおいて前記第2のCA T×チェーンのために使用されるように構成され、

前記第1の周波数シンセサイザは、前記FDDモードにおいて前記第1のCA-T×チェーンのために使用されるように構成され、

残りの周波数シンセサイザは、前記FDDモードにおいて残りのR×チェーンのために使用されるように構成され、

前記第2のCA-R×チェーンは、無効にされる、

請求項1に記載の方法。

【請求項11】

前記トランシーバは、前記FDDモードにおける3つのCA-R×チェーンと、前記FDDモードにおける2つのCA-T×チェーンとを少なくとも含む、

請求項10に記載の方法。

【請求項12】

ダウンリンクチャネルの数を増加させるために、拡張された受信ベースバンドフィルタ(BBF)帯域幅をもつ同じシンセサイザ周波数を使用するためにイントラ帯域/連続受信CAを有効にすることをさらに備える、

請求項1に記載の方法。

【請求項13】

アップリンクチャネルの数を増加させるために、拡張された送信ベースバンドフィルタ(BBF)帯域幅をもつ同じシンセサイザ周波数を使用するためにイントラ帯域/連続送信CAを有効にすることをさらに備える、

請求項1に記載の方法。

【請求項14】

LNA出力をスプリットすることによって、イントラ帯域/不連続CAを有効にすることをさらに備える、

請求項1に記載の方法。

【請求項15】

再構成可能なトランシーバ回路であって、
第1のCA-T×チェーンに接続するように構成された第1の周波数シンセサイザと、複数の周波数シンセサイザ、残りの複数の周波数シンセサイザの各々は、複数のCA-R×チェーンのうちの1つに接続するように構成される、と
を備え、前記残りの複数の周波数シンセサイザのうちの第2の周波数シンセサイザは、共有シンセサイザとして前記複数のCA-R×チェーンのうちの第1のCA-R×チェーンおよび第2のCA-T×チェーンに接続される、

再構成可能なトランシーバ回路。